

本荘まちづくり協議会

【H29.8.1~R1.7.31 期】

活動報告・提言書

目 次

目次

【はじめに】	2
【本荘まちづくり協議会委員名簿】	3
【企画運営部会】	4
【協議会（全体会）の開催状況】	5
【第1部会について】	6
【第2部会について】	14
【第3部会について】	28
【おわりに】	34

【はじめに】

私たちは第3期本荘まちづくり協議会委員として平成29年8月に、市民と行政との協働によるまちづくりを推進することを目的に、市から委嘱をうけ、地域の課題解決や活性化を図るために活動してまいりました。

各部会で「住民が主役の地域づくりと生活環境の向上」、「地域資源を活用した市民生活の充実の促進」、「地産地消から広げる市民交流」をテーマに協議を重ね、提言のみならず、自分たちでできる範囲から実践することも試みました。

この度、その活動報告をするとともに、関係各機関へ提言をとりまとめました。また、実践活動については今後の具体的な施策の取り組み方として参考にしていただければ幸いです。

令和元年7月12日

本荘まちづくり協議会 委員一同

【本荘まちづくり協議会委員名簿】

(任期：平成 29 年 8 月 1 日～令和元年 7 月 31 日)

No.	氏 名	所属（推薦）団体等	備 考
1	畠山 要一	中央ブロック連絡協議会	
2	伊藤 泰博	東部地区連絡協議会	
3	荘司 仁	西部地区町内連絡協議会	第 1 部会長・副会長
4	小松 幸子	石脇地区町内会長連絡協議会	
5	朝日 紀予	子吉地区町内会長連絡協議会	
6	木内 由喜	小友地区町内会長協議会	
7	須田 祐一	石沢地区町内会長協議会	
8	三嶋 一子	南内越町内会長協議会	第 2 部会長
9	川津 利幸	北内越地区町内会長連絡協議会	
10	鈴木 幸治	松ヶ崎地区町内会長連絡協議会	
11	今野 矩子	本荘芸術文化協会	
12	佐々木 昌喜	本荘地域文化財保護協会	
13	原田 礼子	由利本荘市社会福祉協議会本荘支所	
14	大友 ます子	由利本荘市観光協会本荘支部	
15	吉田 輝久	由利本荘市商工会青年部本荘支部	
16	佐々木 真理子	J A 秋田しんせい女性部本荘支部	
17	安倍 一毅	公益社団法人 由利本荘青年会議所	
18	齋藤 加奈子	本荘ハムフライ・ハム民の会	
19	鈴木 睦子	ゆりかごの会	
20	成田 弘美	子育てサロン「あそびっこ」	
21	菅原 清香	ままちょこ	
22	吉田 隆	石脇地域おこし実行委員会	会長
23	佐藤 正樹	由利本荘市 P T A 連合会	
24	嶋崎 真仁	秋田県立大学システム科学技術学部	
25	猪股 和子	石沢保育園	
26	加川 正夫	公募	
27	縄野 博美	公募	第 3 部会長・企画運営部会長
28	齊藤 淨	公募	

【企画運営部会】

部会長 縄野博美

副部会長 成田弘美

部会員 吉田 隆、荘司 仁、朝日紀予、齋藤加奈子、齊藤 淨

開催回数 1回

開催日 H29.9.21（木）

内 容 委員任期2年間の取り組み方針とスケジュールについて協議

<協議結果>

(1)部会を設置し、部会の枠組みは前期協議会と同じとする。

- ・前期の協議事項との継続性を持たせる場合を考慮。
- ・取り組みたい分野が多方面であり2部会制だと少ない。
- ・物事を決める人数、実行する人数を考えると3部会制が適当。

(2)各部会のテーマは次のとおり。

- ・ 第1部会・・・地域づくり
- ・ 第2部会・・・子育て・福祉・教育
- ・ 第3部会・・・産業振興

(3)同一委員が複数の部会へ所属することを認める。

(4)委員以外の人（学生等）がオブザーバーとして部会に出席することを認める。

(5)第2回協議会(全体会)の前に、部会所属の希望調査を実施する。

- ・各部会の人数が偏らないよう、各委員に第2希望まで調査し、事務局で調整する。

(6)任期中のスケジュールについて

- ・中間報告を行うための全体会の回数を減らす（前期の全体会開催数9回を6回に減。前期は集まる回数が多すぎた。部会協議が主であるという考え方。）

【協議会（全体会）の開催状況】

	開催形態	開催日	出席 委員数	内 容
第 1 回	市要請開催	H29.8.17(木)	24 名	委嘱状交付
第 2 回	自主開催	H29.10.27(金)	17 名	部会設置提案、部会協議、目標設定等
第 3 回	市要請開催	H30.3.22(水)	21 名	新年度予算、主要事業説明
第 4 回	自主開催	H30.9.25(火)	16 名	部会中間報告
第 5 回	市要請開催	H31.3.20(水)	23 名	新年度予算、主要事業説明。
第 6 回	自主開催	R1.7.12(金)	18 名	活動のまとめ

【第1部会について】

○分野 地域づくり

○目指す姿 住民が主役の地域づくりと生活環境の向上

部会長 荘司 仁

副部会長 畠山要一

部会員 小松幸子、木内由喜、須田祐一、鈴木幸治、今野矩子、原田礼子、
安倍一毅、吉田 隆、嶋崎真仁、加川正夫、縄野博美

○部会開催状況（第1部会）

	開催日	時間	出席 委員数	備考
第1回	H29.10.27(金)	15:30～17:30	9名	
第2回	H29.11.29(水)	13:30～15:30	10名	
第3回	H30.1.16(火)	13:30～15:30	9名	
第4回	H30.5.24(木)	13:30～15:00	9名	
第5回	H30.5.30(水)	16:10～17:40	9名	県立大学生 19名
第6回	H30.8.6(月)	13:30～14:30	10名	
第7回	H30.9.3(月)	13:30～15:30	7名	
第8回	H30.12.27(木)	13:30～15:30	8名	
第9回	H31.2.21(木)	13:30～15:30	9名	
第10回	R1.6.11(火)	13:30～15:30	8名	
第11回	R1.6.19(水)	16:10～17:40	7名	県立大学生 21名

○第1部会活動の経過

町内会の行事も含めて様々な行事が各地で取り組まれている。前期まちづくり協議会の中で、「町内会活動は決して衰退はしていない。活動は続けられている。」ということが確認されているが、行事のマンネリ化や参加者の固定化が活発にならない原因の一つではないかという問題意識も共有された。

今期の第1部会においては、目指す姿を「住民が主役の地域づくりと生活環境の向上」として、様々な立場の住民が地域づくりに参画できる環境や方法について協議を行った。町内会や町内会以外が行う地域づくりの活動にも様々な主体が参画することにより、マンネリ化・固定化から脱却し地域活性化が期待できる。

現在も、行政や町内会以外の団体も地域活性化イベントを行い、地域づくりに参画しているが、県立大学の学生との交流を通して、「大学がある街」「大学生がいる街」を意識した地域づくりを検討することが問題解決の手がかりになるものとして協議が続いた。

はじめに具体的な取り組みから検討を行った。例えば、県立大学生の力を(有償)ボランティアで地域づくりに活かすことはできないか、学園祭と合同で文化祭を取り組むことはできないか、市民ボート大会で交流の場を設けることができないか、等が意見として上がった。

その検討の中で、町内会行事であるお祭りへの参加に関して、町内会未加入世帯の場合、大学生に限らず子どもがお祭りに参加できない事例があるということが取り上げられた。お祭りへの参加は地域の住民同士のつながりを強くするという役割もあり、町内行事に参加ができないことは、災害時などの共助が必要な際に対応ができない恐れがあるという問題意識にもつながった。また、お祭りへの様々な主体の参加は、お祭りの活性化に資するものともなる。

そこで、様々な人が参画する地域づくりの基礎として「町内会への未加入」問題について焦点をあてて協議することとなった。

町内会へ加入しない理由としてはそれぞれであるが、町内会長がわからず加入に踏み切れない人や、入るきっかけがなく加入していない人もいるとの話があった。また、町内会加入のメリットを知ってもらうことが重要であるとの意見もあった。

その対策として、チラシを作成し、各町内会長や市役所、可能な範囲でアパート管理をしている不動産業者に配布を依頼すること等を検討することとなった。

チラシ作成においてはどのような情報をチラシに掲載するか、どのように配布を行うかについて協議を重ね、以下の通りとなった。

○町内会加入に関するチラシ

	用 途	内 容	配布主体
①	未加入者宅 ポスティング用	未加入者宅へ配布する。 町内会長名や会費額、その他組長等。 個別の内容を書き込める欄を設ける。 加入申込書は様式がそれぞれであるので、チラシにはつけないものとした。	町内会
②	転入窓口用	転入手続きの際に配布する。 「町内会加入のおすすめ」のページのみ印刷し、裏面に従前の転入窓口で配布するチラシを印刷する。	市
③	学生配布用	「町内会加入のおすすめ」を学生に配布する。	秋田県立大学 事務局
④	不動産業者用	アパート契約時に、「町内会加入のおすすめ」を渡してもらう。	不動産業者

- ① 未加入者宅ポスティング用については、既に作成をし、平成31年3月に各町内へ配布をしている。随時ひな形を利用できるように市ホームページに掲載を依頼し、対応済みとなっている。
- ② 市（市民窓口センター）へ依頼をし、システム改修が必要なため、暫定の対応として窓口に備え付けをしている。
- ③ 転入者が多い学生については大学を通じてチラシを配布してもらえよう依頼する。
- ④ 市を通して不動産業者へ配布することを提言書に盛り込む。

また、現在、市役所窓口において、転入者にお知らせしているのは「行政協力員」となっているが、「町内会長」とするべきであるとのまちづくり協議会第1部会の意見を、町内会長連絡協議会総会の場で各町内会長に報告し、理解と協力をお願いした。

【第1部会結びに】

私たち第1部会では、町内会の加入促進が地域の活性化や諸問題の解決につながる有効な手段であることが改めて認識された。今期は提言と共に、具体的で即効性のある実践の一つとして「町内会加入のおすすめ」を作成した。これをもって未加入者全員に効果がある対策とはならないが、加入者増加の一助となり、また、転入者にとっては町内会の役割について認知され、連帯意識が育まれることを期待する。私たちは、町内会を通じて共同体意識が再び強固になることにより、様々な主体の支えとなることができるものと考えている。

○県立大学生との意見交換

秋田県立大学本荘キャンパスで行われている「あきた地域学アドバンスト」の講義において学生と意見交換を行った。

開催日	内 容
H30.5.30	<p>○テーマ</p> <p>「大学生活を送ることになる地域の地域に何を求めたいか」 「地元との付き合い方をどのように考えるか」</p> <p>○学生からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の祭りの情報がなく、参加しにくい。情報があつたとしても、見学のみで参加する意識は低い。その他行事も、企画よりは遊びに行きたいという学生が多数。 ・ 宣伝効果は新聞や広告よりも SNSの方が効果的。 ・ 行政からの配布物が届かない人がいたり、ホームページ上の情報は検索しにくい。 ・ 本荘の花火大会にあまり興味がない ・ 秋田市にあるような娯楽施設を求める傾向が強い。 <p>○意見交換を経てでた委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学園祭に町内会を招いてはどうか？ 合同の文化祭を開いてはどうか？ ・ (有償) ボランティアを学生に求めてはどうか？ 町内会と学生とのつながりができる。 <p>例：町内会の会議資料の作成補助</p>
R1.6.19	<p>○テーマ1</p> <p>「閉校になった小学校の活用方法」</p> <p>○学生からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直売所、工房、カフェ、レストラン ・ 釣り竿を貸し出して釣りを活かしたまちづくりの拠点 ・ 合宿所（音を出せるので吹奏楽） ・ 図書館、博物館、美術館、資料館 ・ 料理教室、〇〇教室（知りたいことや技術について集まって話し合う） ・ 会社の事務所、老人ホーム ・ イベントスペース、月1回のバザー、お化け屋敷、撮影所

	<p>○テーマ2 「駅前活性化について」</p> <p>○学生の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画館、古着屋 ・地元の名産品を使った料理 ・コンビニ、市場 ・高校生向けの施設 ・イベント、お祭り、パレード、スタンプラリー、ゲームセンター、郷土芸能の発表 ・そもそも電車で移動する人を中心に考えない。電車で移動する人は限られている。 <p>○委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人の感覚だなと思った。 ・具体化にはハードルが高い。投資効果があるか。客は本当に利用するのか。 ・閉校になった小学校の例はたくさんある。部活やレジャーも実用的。新しいことをやろうとすると足を引っ張る人がいる。そのうち大仙や中央が持っていく。 ・学生にとって駅前には距離がある。日常的に行くところではない。
--	--

第1部会提言書

住民が主役の地域づくりと生活環境の向上

【現 状】

- ・住民が連携し地域づくりの基礎となっている町内会への新規加入する人が少なく、また、町内行事に参加する住民が固定化されることなどが、町内会や地域が活性化しない原因の一つと考える。
- ・新規加入されない要因の一つに、町内会の役割や加入方法が知られていないことも挙げられる。

【理想像・これからの取り組み】

より多くの住民が地域づくりに参加できるよう、「町内会加入のおすすめチラシ」を作成・配布し、町内会の役割・加入方法を周知する。

具体的推進策（提言）	実施できる団体等
① 転入手続きの際にこれまでは行政協力員の氏名と電話番号のお知らせを行っていたが、町内会長の氏名と電話番号を知らせるようにする。	市（市民窓口センター）
② 町内会長へのチラシ配布継続と効果の検証	市
③ アパート契約時に転入者に渡してもらえよう不動産業者に「町内会加入のおすすめ」チラシを配布する。	市（移住まるごとサポート課・地域振興課）

町内会加入のおすすめ

～町内会は、くらしのなかの縁の下の力持ちです～

市の広報などの
配布



ごみステーション
の設置・維持管理



町内会では、こんな
活動をしています！

子育て支援

親睦のための
レクリエーション

町内会によって活動内容は
異なりますが、活動の一例
を紹介します。詳しくは裏面
をご覧ください。



防犯
交通安全

高齢者の
居場所づくり

道路や公園の
環境美化

防災



町内会では、より安心安全で住み良い
環境を築こうと、様々な活動や行事を
行っています。

町内会に加入して、親睦や交流を深
め、一緒により良い暮らしと地域にして
いきませんか。

※事情により加入できない場合も、ごみ
ステーションの使用や広報の配布につ
いて、町内会にご相談ください。

町内会の活動紹介

■市の広報などの配布

広報などは市から町内会を通じて各世帯や事業所に届けられます。広報などは行政の動向を知るとともに、日常の生活に欠かせない情報を知ることができる資料です。

■親睦のためのレクリエーション

普段から顔見知りになり親睦を深めることが、安心して安全な暮らしやすい地域づくりにつながります。行事への参加は家族の思い出づくりにもなります。

■防犯・交通安全

登下校の見守りや防犯パトロールを行っています。街灯の中には町内会が設置し管理しているものもあります。

■道路や公園の環境美化

生活環境を快適に保つため、道路や公園の清掃や草刈り・花植えなどを行っています。



■ごみステーションの設置・維持管理

町内のごみステーションは、町内会が町内会費のなかで設置し、補修や清掃をしています。

■子育て支援

子ども会活動に助成している町内もあります。また、行事は子どもでも参加しやすいように工夫しています。

■高齢者の居場所づくり

例えば、高齢者の介護予防のためにミニデイサービスを開催したり、老人クラブに助成したりして、高齢者の居場所をつくっています。

■防災

災害の際、行政の機能もストップする可能性があります。そんなときは、近隣同士で助け合い安全を確保する必要があります。普段から町内会活動を通じて近隣とのコミュニケーションを取っておくことは、いざという時のためにもなります。

あなたの地域は	町内会	組です
会長は	☎	です
会費は(月額・年額)		円 です

【第2部会について】

○テーマ 子育て・健康

○目指す姿 地域資源を活用した市民生活の充実の促進

部会長 三嶋一子

副部会長 朝日記予

部会員 伊藤泰博、鈴木睦子、成田弘美、菅原清香、吉田 隆、佐藤正樹、
嶋崎真仁、猪股和子、縄野博美、齊藤 淨

○部会開催状況（第2部会）

	開催日	時間	出席 委員数	備考
第1回	H29.10.27(金)	15:30～17:00	10名	
第2回	H29.11.24(金)	13:00～15:00	9名	
第3回	H29.12.15(金)	10:00～12:00	7名	
第4回	H30.1.26(金)	10:00～12:00	10名	総合防災公園管運営準備事務局 山住課 長補佐、木のおもちゃ美術館整備推進事 務局 渡辺主査、子育て支援課大井課長
第5回	H30.4.20(金)	10:00～12:00	7名	
第6回	H30.5.24(水)	13:00～15:00	11名	
第7回	H30.6.13(水)	16:10～17:40	10名	県立大学本荘キャンパス 意見交換会
見学	H30.6.20(水)	14:00～16:00	11名	木のおもちゃ美術館
第8回	H30.7.6(金)	10:00～12:00	6名	
第9回	H30.9.7(金)	10:00～12:00	8名	
第10回	H30.10.23(火)	14:00～16:00	8名	木のおもちゃ美術館
見学	H30.10.30(火)	10:30～11:30	7名	地域生活支援センター 高橋所長、小原 主査、和田相談支援専門員
第11回	H30.12.7(金)	10:00～12:00	7名	
第12回	H31.2.28(木)	10:00～12:00	7名	
第13回	R1.5.14(火)	10:00～12:00	5名	子育て支援課村上主任
第14回	R1.6.12(水)	15:30～17:40	8名	県立大学本荘キャンパス 意見交換会
第15回	R1.6.26(水)	9:00～12:00	7名	コスモワールド見学、他部会1名
第16回	R1.7.5(金)	10:00～12:00	7名	

○部会協議の経過

由利本荘市には公共施設が多数あることに着目した。無いものを要望するのではなく、既に存在している建物や、新設が決まっている建物をより魅力的なものにするという視点から検討を行うことにした。また、提言をするだけでなく、それをバックアップする気持ちを持って部会で実行できるレベルで実践をすることを目標とした。

1. 木のおもちゃ美術館について

本荘地域の多くの親子が利用することが期待される施設であるため、応援したいという気持ちと、施設のためではなく地域の人たちのためにとって良い施設になってほしいという思いから検討の対象とした。

新しい施設のため、1度は訪れると思われるが、リピーターを確保することがあらゆる施設にとって重要である。また、周辺の環境と一緒に企画することでより楽しめる施設になるとの考えから、まずは、モデルコースの検討から入ることとなった。

検討にあたり、県立大学生と一緒に考え、大学生から提案をうける機会を設けた。

秋田県立大学本荘キャンパス

平成30年6月13日（水）16:10～17:40

① 若者向け②子ども連れ③車いす④健康増進の視点から以下の条件をもとに大学生にモデルコース考えてもらった。

- ・午前出発～午後帰着
- ・おもちゃ美術館以外の場所もコースに取り入れる。
- ・交通手段は自由。列車の場合は本荘駅発、それ以外は市役所発とする。

以下は、学生が考えたモデルコース

モデルコース（若者向け）

- ・列車で行き、職業体験プログラム（保育、介護、教師、福祉）
- ・羽後本荘駅→鮎川駅→貸出自転車→サイクリング→おもちゃ美術館
- ・学生の必修にする
- ・薬師堂駅まで自転車（自転車を列車に積む）→鮎川駅→（自転車）→おもちゃ美術館→（自転車）→法体の滝→（自転車）→水辺プラザ→（自転車）→ゆりえもん（温泉）→（自転車）→羽後本荘駅

モデルコース（子ども連れ向け）

・おもちゃ美術館→（列車）→西滝沢水辺プラザ→（列車）→羽後本荘駅→自転車で本荘市内を散策（親と一緒に学区外で自転車に乗れる）

モデルコース（車いす利用者向け）

- ・段差がある。なるべくバリアフリーにする。
- ・車いすの方が休憩できる和室のある西滝沢水辺プラザに寄る。

モデルコース（健康増進）

- ・団体バスで、市役所スタート
 - プラン1 牧場→おもちゃ美術館
 - プラン2 由利本荘アリーナ→おもちゃ美術館

○学生の意見と委員の感想

- ・周辺に散策路ができればいい。
- ・時間とお金のある世代をいかに呼ぶか（大人の学校など）。
- ・車いすの人が休憩できる和室があるが、実際は和室で休憩は大変。
- ・レンタサイクルはよい意見だった。予算が必要になる。
- ・職業体験プログラムは学生ならではの意見。
- ・若者向けコースはスポーツ感覚の発想だった。
- ・昼食はコンビニでよいという学生からの意見もあった。
- ・子連れコースは、小学生は友だち同士で学区外に行かれないルールあり、親と一緒に学区外で自転車に乗れるという点に目をつけた。

次に、学生との意見交換会の後、6月20日にプレオープンとなる木のおもちゃ美術館を見学した。とても充実した施設であるとの感想を持ったため、他にどこかに立ち寄るツアーコースではなく、市民目線のアイデアとして館内のおすすめスポットを紹介するべきとの結論に至った。

作成にあたり、木のおもちゃ美術館職員と話し合いをし、私たち委員の実体験を交えた紹介チラシを作ることとなり打ち合わせを重ねた。おもちゃ列車「なかよしこよし」も掲載するため由利高原鉄道株式会社の協力も得た。委員自身が楽しみながら利用した感想が盛り込まれているため、公式のリーフレットとは異なる美術館の魅力を伝えることができるものとなったと考える。

・まとめ

木のおもちゃ美術館は令和元年7月1日で1周年を迎えた。平成30年度目標が2万5千人であったところが約6万9千人という予想を大きく上回る来場者を迎えている。これからリピーターの獲得が重要となってくるが、私たちの活動がその一助となっているのであれば幸いである。



小部屋ごとの空間

くぐってみるとおもしろい、かまねと安心する。その遊び場にある26個の小部屋。遠めにみると、小さい部屋なのかなと思っけれど、中に入ると広がりを感じます。——なんだろう？



おもちゃ列車「なかよしこよし」

2000年に導入された由利高原鉄道のYR2001号車をリファインして、木の良さを感じられる特別仕様。子どもたちが安心して遊べる木のおもちゃ、大人も満足できるミッドで落ち着いた雰囲気の中で、最寄駅 鮎川までいざいざ。鮎川から、専用バスで。



鉄道、車内写真提供：由利高原鉄道株式会社

うわばきをもってきてね
おせちや美術館は、築60年以上の国登録有形文化財である旧鮎川小学校をそのまま美術館として使用しています。木製のおせちやよ、足に落とすとかなり痛いせのせあります。ケガの防止と施設設備の保全の観点から、うわばきの持参をお願いします。

発行日：31年 1月
取材日：30年 10月

作成 編集 本荘まちづくり協議会
施設に關すること、おせちやに關するお問い合わせ、おせちや美術館(☎0184-74-9070)へお願い致します。

／私たちが、本荘まちづくり協議会第2部会で、手にとっていたたき、ありがとうございます。



島海山 木のおせちや美術館

わたしたちのおすすめスポットをご紹介します



このチラシは、市民目線で、おもちゃ美術館の楽しさを伝えるために、本荘まちづくり協議会第2部会が作成しました。

モリのあそびば

▼KAPLA (カプラ) 平日は遊びの小部屋の一室にありますが、私がオスメしたいのは土日のSTEAMに準備されたカプラです。木のLEGOみたいな好きな形を作ったりできますが、単純だけれどたまたまの上に積み上げるといくのが好きになる！

学芸員さんのお話ではSTEAMの天母まで作った方がいるとか！そして崩れ落ちる瞬間の緊張感と体育館に響きわたる美音をお楽しみ下さい。

11/11/15 広場よ、2歳以下のお子さんとお連れの方だけが入ることが出来ます。

大人でも身体を丸めると、ケヤキの木の株の中心に入れることができます。由科本館の新・パークスで遊べます！！

キッチンカフェ「kino」

▼遊びの夢中になったあとには、ほっと一息。元職員室のスペースにカフェがあります。部屋の片隅には今も残る、小学校の行事予定表。鳥梅山とおぼろ号のある日の情景を細工で緻密に表現した作品も忘れずにごらんください。カフェでは、素材がほっと温まるメニュー。ぜひおめしあがりください。



グットトイサロン

▼一見何ともしえない動きのおせち様がたくさん！

科学の芽と目が、いっぱい広がります。この不思議なからくりを、あなたの頭脳が解き明かせますか？

ハイハイ広場

▼鳥梅山の息吹が根付く温原の里山、冬師(とうし)・釜ヶ台地域にあった、樹齢300年のケヤキのコブの圧倒的存在感！

大まかにせよ、大変珍しく貴重なコブです。見る角度によって動物に見えるのだから。しかしコブの中で赤ちゃんと177cmをくらえらるから！色々な方に、このケヤキの歴史を感じてもらいたいです。



大人も夢中になる
あそびはじめたらとまらない
おせち様の数々

2, 由利本荘市生活支援センターについて

日時	平成 30 年 10 月 30 日 (火) 10:30~11:30
内容	<p>施設の機能、障がいをお持ちの方への接し方、相談から支援までの流れ、障がい福祉への理解が広まるため自分たちにできることは何かを知ることが目的として研修を行った。</p> <p>センターとしても障がい者への地域の理解を広めたく、知ることが支援と考えている。</p>

見学会後の感想

Q 1 障がい福祉について、あなたが関心を持っていること()内は人数

相談の窓口 (1) 支援の仕組 (4) 障がい者 (児) の生活 (2) サービスの種類 (1)
福祉制度について (2) 福祉施設・事業所の所在地 具体的な相談事例 (1)

Q 2 今回の視察や職員の方からの説明を受けて、印象に残ったことは？

初めてみる施設だったので、丁寧な説明を受け、より理解が深まったと思う。

職員の方と利用者との良好な関係がうかがえた

事業の内容が理解しやすい説明だった。

職員の多さと優しさ、熱意

地域力をつけるということ

職員の方々の情熱

受け入れ人数の制約があり、意外と少人数しか対応できないのだと思った。

障がいをお持ちの方が、当たり前前の生活を地域の中でできる社会を、という思いが伝わってきた。連携することの大切さ。

Q 3、今後、まちづくり協議会の他の部会の皆さんも交えて、障がい福祉に関する講演会・学習会等を行うとしたら、どのようなテーマがふさわしいか？

ひきこもりや人と関わるのが苦手な特性をもった人への関わり方・理解 (本荘社会福祉協議会の事業が参考になりそうです)

将来の理想とする生活支援のあり方～利用・施設・料金など～

障がいの種類の勉強

身近なところに彼らが出来ることを探す。

地域の中で暮らすということは、色々な方がいて当たり前という意識や支え合うということは、一方的な支援をするということではないという考えが広がるような講演会

Q 4、今回の見学の感想

- 直接お話を伺うことができ、保育園としてできることを模索していきたいと強く思いました。
- 障がい者が地域でくらすためには、地域住民がもっと障がい者に関する知識を増やしていくことが必要だと思った。地域の運動会に参加しているということを初めて知り、頼んだ人や受け入れた人の相互の努力を感じた。やっている人は、やっているのだと思った。
- 支援センターの方は、時代の変遷の中で、障がい者（児）の居場所をずっと探し続けて来たのだと思う。様々な場で、お話してもらい機会、聞きにいける場があるとよいと思う。
- 施設の存在を含めて、ほとんど知らないことばかりだったので、丁寧な説明が施設見学を受けてより理解が深まりました。今後、施設の存在をより広く市民へ広められるように個人的にも努力したい。

《提言・実践へ繋げるために》

今回の地域生活支援センターの視察を経て、各委員が持った感想やその後の協議の中から大きく2つが、挙げられる。

- ① 地域の方々の中に、障がいに関する知識、理解が広まることが、由利本荘市が障がい児（者）が住みよい地域になることに繋がる。
- ② ①の様に支援の流れにのる方々以外にも、地域の中での困りごと、支援の必要がある方々がいるのではないかと？地域の中でどの様に取り組んでいけばよいか？

今後については、①、②をテーマとした講演会や研修会の実施を行うことができればよい。





- ① 地域生活支援センターの方に、「障がいに関する知識」として、障がいの種類、制度、支援の仕組みをテーマにした講演を依頼し、講演・研修会を開催。
対象者：まちづくり協議会委員、町内会長、民生委員
- ② 支援が必要とされる方・ご家族が相談される窓口（県・市の機関）の方に、「支援に繋げるために」として、相談機関の種類、相談へのつなぎ方、事例を挙げた支援のつなぎ方をテーマとした講演を依頼し、講演・研修会を開催。
対象者：まちづくり協議会委員、町内会長、民生委員、学校関係者

※相談窓口の機関として、出前講座等の準備がある県の機関や医療機関の医師やケースワーカー等が挙げられる。

平成30年度「あきた県庁出前講座」メニュー より抜粋

No.	講座名	講座概要	対象	担当課等	電話番号	FAX番号
58	子どもの貧困対策について	子どもの貧困の現状と課題	どなたでも	地域・家庭福祉課 保護班	018-860-1314	018-860-3844
59	児童相談について	子どもに関する相談の現状や特徴、子ども達を取り巻く状況等について	学校・PTA等が実施する、おおむね20人以上の学習会	中央児童相談所	862-7311	824-4010
				南児童相談所	0182-32-0500	0182-32-3369
60	女性相談(DV相談等)について	女性に関する相談の現状や特徴、DV被害者対応等について	どなたでも	女性相談所	018-832-2534	018-832-2534

53	医療・介護・福祉等のネットワークについて	高齢者等が介護や療養が必要な状態になっても住み慣れた場所で生活を続けることができる体制づくりについて	どなたでも	福祉政策課 企画班	018-860-1313	018-860-3841
54	身体障害者について	身体障害者手帳、更生医療、補装具など、身体障害者に係る福祉制度について	どなたでも	福祉相談センター	018-831-2301	018-831-2306
55	知的障害者について	知的障害と療育手帳制度について	どなたでも	福祉相談センター	018-831-2301	018-831-2306

	67	精神障害者の福祉サービスについて	精神障害者が利用できる自立支援利用制度などを紹介します。	どなたでも	障害福祉課	018-860-1331	018-860-3866
	68	障害者差別解消法について	法の趣旨やヘルプマーク、ヘルプカードなどの県の取組について紹介します。	どなたでも	障害福祉課	018-860-1331	018-860-3866
	69	ひきこもり対策について	ひきこもり本人や家族への県の支援について紹介します。	どなたでも	障害福祉課	018-860-1331	018-860-3866
	70	発達障害支援対策について	発達障害について県の取組を紹介します。	どなたでも	障害福祉課	018-860-1331	018-860-3866

・まとめ

視察の機会を得て、障がい児（者）をとりまく環境、障がいに関する知識を深めることができました。今後はまちづくり協議会が持つ繋がりを通して、市民に、障がいについて知る機会、理解が広がり、由利本荘市が障がいの有無に関わらず、ひとりひとりが自分らしく暮らせる地域となることを望みます。

3, 仮称「いきいき子どもプラザ」について

現時点で規模が変わるような要望をしても来年春の供用が決まっており実現は困難であるため、できたものをどのように運用していくかという面から検討をしていくこととした。

令和元年 5 月 14 日(火) 10 時 00 分～

市役所子育て支援課職員から説明を受けたのち以下の通り意見を述べた。

- ① 児童館としての機能は、平日は一度自宅に帰ってからの利用となる。そのため、児童館に来てから過ごす時間はとても短いものになってしまうため、新しい施設においては閉館時間も検討してほしい。また、冬場などは、暗くなるのが早いので、季節に応じた開館時間とするのも良いと思う。
- ② 尾崎小はキピーが月～金まである等充実している。尾崎ばかりと思われるかもしれないが、今回施設が新設されるにあたり、尾崎小の子どもだけでなく、どの学区の子どもも利用できることをPRしてほしい。
子育ての支援が充実するのはいいことだが、PRをしっかりすることが重要。子育て支援は沢山バリエーションがあってよくわからないところもある。検診の機会に丁寧に説明するなど、転居してきた人にもわかりやすく周知方法を検討してほしい。
- ③ 保育園より魅力的な何かがほしい。A I ロボット等、秋田の児童会館はとてにぎわっている。木のおもちゃ美術館の別館のようなものはどうか？
- ④ 保育園行事の一環で利用できないか？例えば、本荘公園に遊びに来たときに雨宿りや昼食会場としての利用。そのような利用をすることにより、子どもがまた来たいと思えば施設のPRになる。
- ⑤ 作業活動室は飲食も想定しているとのことだが、離乳食のワークショップなども期待できそう。

市子育て支援課職員からは、「運用の仕方について各関係団体から様々なご意見をいただきながら検討を進めているところで、今回のまちづくり協議会でいただいた貴重なご意見についても検討材料としながら、利用方法に関する取り決め等について、現在の運用にとらわれず柔軟に対応していきたい」という話をいただいた。

・まとめ

尾崎小学校に隣接している建物であることから、尾崎小学校の児童以外は利用することをためらうことを最も危惧します。第 2 部会としては、尾崎小学校区の子どもだけではなく全市の子どもたちの施設であることをPRして、広く多くの人が利用できる施設となることを期待します。

4, コスモワールドについて

日時	令和元年 6 月 26 日 (水) 9:00~12:00
内容	コスモワールドは本荘地域から比較的近く、こどもにとって良い教育資源にもなりうるが、委員内でもほぼ利用したことがないため見学することとなった。

見学後、アンケート結果

Q1, 印象に残ったこと

1, プラネタリウムについて

- ・空調があり過ごしやすい。アナウンス、ナレーションが上手でした。
- ・星座の見つけ方等がわかりたいへん良かった。・リクライニングで見やすかった。
- ・星座説明は別にビデオ放送がいい。星座の説明、レベルが高すぎる。もっと低レベルに。
- ・月だけではなく、日中の惑星や恒星が確認できたことが印象的だった。
- ・小さいプラネタリウムでしたが、由利本荘でプラネタリウムを見ることができると思っていなかったなので、来ることができて良かったです。

2, 望遠鏡について

- ・夜に見てみたい。
- ・初めての体験ですごい良かった
- ・思っていたよりずっと感動できる。
- ・日中、水星、金星も見ることができて感激しました。
- ・ベテルギウスは見れなかったが、月、金、水星は見るすることができた。是非、夜も見てみたいと思った。部屋も良い空間でした。
- ・60cm大型望遠鏡を体感できたことはよかった。時間的には無理だったが、小型望遠鏡の操作体験もあればよかった。時間の関係上、主に観測だけで終わってしまったので、やはり予備的な知識などを事前に学習出来たらより天体を身近に感じられ

たと思う。たとえば、惑星と恒星の違い、内惑星、外惑星、星の明るさの単位、星の色の違い、各惑星の特徴など用語の説明など。

- ・私は父が天体には全く興味がなかったし、私自身も興味を持つきっかけが無かったので、今回、高級な SINDEN の望遠鏡だけでなく、ふつうの望遠鏡すら触ったことも無く、もちろん月や星を肉眼で見たことも無かったので大変貴重な体験になりました。

Q2, この資源を活かしてできる活動、利用者を増やすためには？

- ・地区町内会の子ども会・保育園・小中高の野外活動
- ・コスモスが咲く頃に入館できるようにしたら良いと思います。
- ・日食、月食等の日に親子で参加できるような企画を検討してほしい。
- ・夜は明かりがないため、市のバス利用を考えてみては？（別の委員から市のバスは夜間運行できない決まりになっている）
- ・コスモワールド単独では難しいと思う。鳥海高原全体での誘客を考える必要がある。
- ・認知度が少なくもっとPRし施設を知ってもらう。
- ・高原でのイベントPR時に便乗してPRする。
- ・地区、町内の子供会の夏行事に活用してほしい
- ・毎日開館するには不合理だが企画的に年配向けに平日も開いてもいいのではなか。
- ・施設の活動状況がよくわからないし、これだけの設備を持っていることが市民にも十分に伝わっていない。完成した当時は利用者も多かったのだが、今は激減である。初心に戻り、市当局や理科センターが中心に年間活動計画を立て、それに予算配分をすべきである。このままでは、メンテナンスの予算も先細りになり、廃棄されないとも限らないので、おもちゃ館のガイドのように市独自で、望遠鏡や天文ガイドボランティア養成を企画し、ボランティアでもいいので、冬期間以外毎日担当者を置くべきである。「本荘星の会」会員数も非常に少ないので、講師を「星の会」に要請し、来年度からでも「天文ガイド養成講座」を実施すべきである。強く市当局の担当者に要望する。

東北で第3位の望遠鏡であることが意外に知られていないし、しかも天体観測に適した自然環境にあることもPRできていない。天体観測を「まちづくり」において成功した活用事例がたくさんあるので、市職員はもっと学習し、情報を共有し、現在のような臨時職員やボランティアだけに頼るシステムはすぐに改善すべきである。

夜の天体観測ツアーを市主催でぜひ実現してほしい。

- ・由利本荘市のたくさんの子供たちにもコスモワールドでプラネタリウムや望遠鏡を体験させたいと思う。できることなら、一番魅力的な夜の観望会ももっと気楽に参加してもらいたいと思う。

私の地元には、閉館になった渋谷五島プラネタリウム等、過去に有名なプラネタリ

ウムがありました。最近人気のあるプラネタリウムは、もっとハイテクになったり3Dやヒーリングプログラムも兼ねていたり時代に沿って変化していますが、財政的に余裕があったら同じように出来ればいいと思うが、由利本荘市に限らず、どこの自治体も難しいと思う。

ただ今回のコスモワールド視察を経て、ハイテクに変わる必要がないと思う。子供たちがコスモワールドやそこで行なわれるイベント等を体験することで天体や科学、物理や地学への興味へつながるきっかけづくりの一助となる大切な資産だと思う。もちろん、由利本荘市だけでなく秋田県・山形県の子どもたちでも来たいと思ってもらえるようなPRが必要です。広報や小学校からのお便りで表面的な内容は見聞きしている人も多いかもしれない。ただ、現地でしか体験し得ないものをPRする必要がある。

まずは親に魅力が伝わらなければ、子どもに届かない。

インスタやFBなどで、写真でまだ見ぬ相手に訴えかけえる事が効果的でお金がかからないと思う。現在ボランティアで参加してくれている大学生を巻き込んでアカウントを管理していけば、負担感は少ないかもしれない。

また、観望会は夜間のツアーとなるため、現地集合現地解散ではハードルが高い。翌日のことを考えなくていい金曜の夜にバスが出て、比較的安価に参加できれば、まずは行くことの敷居を確実に低くできる。

Q3、その他

- ・望遠鏡での観察は大変良い経験でした。今日参加して良かったと思いました。
- ・プラネタリウムを星空鑑賞以外での活用を考える。
- ・一般見学、参観可能な状況にしてください。
- ・パワースポットというかストレス解消になる
- ・すがすがしい気持ちになれる。
- ・天体観測日に小学生との見学会
- ・カダーレの望遠鏡やプラネタリウムの活用状況も同様なので、本気で活用できる施設にするために「本荘星の会」会員だけでなく、「星空案内人」「星空準案内人」資格を持った市民がいるので、彼らと協力して施設利用の活発化を目指す意気込みを市当局に要請する。

・まとめ

土日祝日等限られた日しか空いておらず、また、天気次第という少ない開館状況もあり訪れる機会が少ないが、一度足を運んでもらえればコスモワールドの良さが伝わる施設であるとの感想を持った。もう一度、行政・民間を含めて利活用のきっかけ作りから検討していただきたい。

○県立大学生との意見交換

秋田県立大学本荘キャンパスで行われている「あきた地域学アドバンスト」の講義において学生と意見交換を行った。

開催日	内 容
R1.6.11	<p>テーマ「学生がよい食生活を送るために必要な環境とは？」</p> <p>学生に話を聞くと、自炊しない、面倒、三食摂らないという話を聞く。中学校までは食育が行われているようになったが、大学生になって一人暮らしをすると、食育が途切れてしまっているように感じる。それが将来の子どもたちにも繋がってしまう。また、単純に心配でもある。</p> <p>更に、必要とされる環境を把握することにより、地域の経済循環にも学生を取り込むために必要な要素を見出す可能性がある。</p> <p>○学生の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を抜く学生が多い。理由は朝起きることができない。 ・「料理したい人」もいるから、料理したいひとと食べたい人がマッチングしてくれるシステムがあればいい。 ・食育をうけてきたが、意識することはほとんどない。「野菜を食べなきゃ」くらい。食事で健康というよりはエネルギー補給のため。 ・自炊もほぼしない。技術的などころもあるが、時間がないという理由が多い。たまにしかしなければ、安上がりにもならない。 ・昼食は学食を利用するが、メニューに不満がある。 <p>○委員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寮に入っていないと食べない人が多い。是非食べる工夫を。食べたもので体と心ができる。「時間がない」というがまだある方だと思う。 ・学食は茶色いメニュー。値段とボリュームだけ。学生は使いたいと思っているが人気はない。 ・血液から万病に至り、血液は食から。努力次第で時間はどう作るか。 ・自分を振り返ると思ったより朝食を食べていた。料理教室があってもいいかもしれない。自炊の日を作ってはどうか。 ・老化により食べることができなくなるひとを見ると食の大切さを感じる。 ・市が主催する料理教室などの事業をもっとPRしてほしい。 ・空き家を利用した、近所のおばちゃんが地元の食材を使った料理を安価で提供する店というのはどうだろう。

【第2部会結びに】

今回私たちは4つの施設を中心に活動を行いました。そのため、施設のお仕事に携わっている多くの職員の皆様のお力をお借りしました。この場を借りてお礼を申し上げます。わたしたちがこれを機会に得た知見を、より多くの人に広め、多くの人が施設を有効活用し幸せな生活を送ることができる手助けとなればと考えます。コスモワールドに限らず、由利本荘市に今本当に求められていることは、新しい建物ばかりをPRするのではなく、過去に作って、そのままにしている施設の良さを再度発掘すること、その上でPRすることだと思います。

また、私たちの実践活動において「木のおもちゃ美術館」を紹介するリーフレットの作成をいたしました。木のおもちゃ美術館の皆様には快く訪問・取材を受けてくださったことにお礼を申し上げます。おかげさまで、平成31年2月1日に木のおもちゃ美術館猪股館長にリーフレットを渡すことができました。このリーフレットがおもちゃ美術館の魅力を引き出し来場者が繰り返し訪れ楽しむことができることが望まれます。

【第3部会について】

○分野 産業振興（商業・観光・スポーツ・広報・農工業）

○目指す姿 地産地消から広げる市民交流

部会長 縄野博美

副部会長 佐々木真理子

部会員 川津利幸、佐々木昌喜、大友ます子、吉田輝久、齋藤加奈子、
成田弘美、吉田隆、嶋崎真仁、加川正夫

○部会開催状況（第3部会）

	開催日	時間	出席 委員数	備考
第1回	H29.10.27(金)	15:30～17:00	6名	
第2回	H29.11.16(木)	13:30～15:30	6名	
第3回	H30.1.18(木)	13:30～15:30	5名	
第4回	H30.4.25(水)	13:30～15:30	6名	
第5回	H30.5.23(水)	15:30～17:40	6名	県立大学生 17名
第6回	H30.7.5(木)			都合により中止
第6回	H30.9.5(水)	13:30～15:30	7名	
第7回	H30.10.24(水)	13:30～15:30	6名	
第8回	H30.12.7(金)	14:00～16:00	8名	JA2名
第9回	H31.2.5(火)	13:30～15:30	7名	
施設見学会	H31.4.18(木)	8:30～15:00	5名	その他参加者 23名
第10回	R1.5.8(水)	15:30～17:50	3名	県立大学生 24名
第11回	R1.5.23(木)	13:30～15:30	7名	

第3部会活動の経過

・「地産地消から広げる市民交流」のテーマ設定に至る経緯

全国的に人口減少が問題となっているが、特に若者の進学や就職を転機とした転出が多い。若者のみならず、人口流出を防ぐ手立ての一つとして地元へ愛着を持ってもらうことが挙げられる。そのためには、「食」だけではなく「エネルギー」「伝統工芸」等が地元にあることを知ってもらい、活用する機会を増やすことが有効な手段となる。このような、様々な分野の地産地消を進めるにあたっては、単に情報の発信にとどまらず、市民同士の交流を通じて進めることにより、若者にとっては地元からの恵みを受け、支えられているということが実感できる機会ともなる。地元から愛されてから転出すれば、いずれは地元へ戻ってくるということが選択肢の一つとして残るものと考えた。

・具体的な実践内容

平成30年1月の部会から地産地消するにあたり、地元産品とはなにか、地消するためにはどのようにすればいいか等を協議した。協議の中で、地元の人が地元の物を知ることが重要であることが再認識され、地産地消につながる適当な素材を検討した。そこで、話し合いの結果発案された事業が「JA 施設見学」であった。この事業であれば商工業者への波及はもとより、地元生産物への関心も向けられ子育て世代を対象とした体験企画ともなることが期待できる。また、安心安全な食のあり方についての考え方を広げていく事については農家の収入向上にも資すればよいと考えた。

その後、秋田しんせい農業協同組合（以下、JA）と協議を重ね、施設見学をJAに申し入れ、モデルツアーを作成し、まちづくり協議会の委員を対象に試験的に実施した。

H30.10.15（月）本荘まちづくり協議会 JA 施設視察研修（参加委員13名）

9：30	由利本荘市役所 発
9：45～10：15	あきた総合家畜市場（大谷字大谷 17-1）
10：45～11：15	キク種苗供給センター（にかほ市院内字新稲荷田 15）
11：45～12：45	花立クリーンハイツ【昼食】（矢島町城内花立 60）
13：15～13：45	カントリーエレベーター、花卉集出荷施設（鳥海町下川内字鑑ヶ平 171）
14：15～14：45	青果物基幹集出荷所（埋田字小館 69-1）
15：00	由利本荘市役所 着

参加した委員からの感想（一部抜粋）

- ・普段何気なく買い物をして消費しているだけでなく、生産者またそれを統括する JA の仕組み、流通に興味をもった。通常は知る機会がないので、もっと身近になれば消費の活性化につながる。
- ・外国人も視察できるようなかたちを市と連携して行ってほしい。
- ・農家であるが、今まで見ることができずとても勉強になった。JA が生産者の所得向上・生産意欲を保てるための対策を講じていることが感じられた。
- ・多くの労力と時間、そして立派な施設設備があって消費者に届けられていることにありがたさを感じた。
- ・JA だけでなく、他の施設見学もあった方がいい。

以上の感想の他、是非一般向けに開催してほしいという声が多数あった。JA の施設がこれほど多岐にわたっていることや、食を支える手間暇について、今まで知らなかったという感想が多くあった。施設見学を実施するにあたり JA 職員の皆様には大変丁寧な対応と、わかりやすい説明をしていただいたことも、参加者の満足度が高い要因だと考えられる。

その後、ツアー実施が大変好評であったことをうけて、農業の応援団を増やし、地元愛につなげるという基本的な目的を JA とまちづくり協議会が共有し、一般の受け入れを目指して再度、試験的に見学会を開催することとなった。一般向けに試験開催をするにあたっては市広報・まちづくり協議会委員・JA 等を通じて参加を呼びかけて実施した。

H31.4.18（木）JA 施設視察見学会 主催：JA （参加者：26名）

8：45～9：00 JA 秋田しんせい本店（荒町）

9：30～10：00 あきた総合家畜市場（大谷字大谷 17-1）

10：15～10：30 ペレット堆肥施設（及位字及位沢 7 4-1）

10：30～11：00 和牛周年預託牧場（及位字及位沢 7 4-1）

11：15～11：45 A コープ大内（大内三川字三川 3 8）

11：45～12：30 JA 大内支店（大内三川字三川 3 8）

13：00～13：30 キク種苗供給センター（にかほ市院内字新稲荷田 15）

14：00～14：30 野菜育苗センター（森子字鮎瀬 1 5 0）

14：45～15：15 JA 秋田しんせい本店（荒町）

開催後アンケート（見学に関する感想を一部抜粋）・・・J A提供

- ・お天気に恵まれ、前回と違う方々とおしゃべりしながら楽しく視察させて頂きました。やはり話では聞いても現場を知らないという事は、興味は薄れていると感じました。この施設巡りツアーは続けてほしいと思います。農家ではない方たちもたくさん参加して農業、食の安全を知ってほしいもんですね。
- ・広報に載りましたが、知らないという声を沢山聞きました。写真（カラー）も載せ、PRしていただけたら、もっと皆さん来てくれたかなあとと思います。
- ・説明してくれる人の声が皆に聞こえるようにハンドマイクを使ったらよいと思った。
- ・今日は、貴重な体験をさせて戴きました。ありがとうございます。暑いハウスの中での作業、ご苦労様です。接木苗、高価な意味がわかりました。
- ・農協さんの存在意義を深く考える機会となりました。苗の生産ひとつひとつをとっても、地元農家の負担軽減に如何になっているかを知ることができました。施設ひとつ見ることなく、野菜の苗生産ひとつを見ることなく、友人たちと農協さんの存在意義を議論していた我が身を恥じ入るばかりです。広く農協さんの活動を一般の方々に知る機会を、どんどん持ってもらいたいと強く思いました。今日は本当に見学させていただき、ありがとうございました。
- ・今までもこれからもJ Aなしでは生きていかれません。（老農家です）よろしく、そして、職員その他の方々頑張って下さい。
- ・農業やJ Aとはかかわらない仕事をしているので、見る事のない施設を見られてよかったです。
- ・大変な仕事なんだな・・・と思いました。生産されたものを購入する時、食す時、今日のことが頭に浮かぶ気がします。見学して初めて知ったことばかりです。本日は本当にありがとうございました。生産者の方にも感謝です。
- ・考えていたより奥が深く、こんなにいろいろ力を尽くしていると云うことを知り、参加できてとても感謝しています。これからももう少し興味を持っていきたいと思います。本当に思いがけなく楽しい一時でした。ありがとうございました。J Aにもっと興味を持っていきたいと思います。
- ・家畜市場、野菜育苗等の説明が上手で、私たちの興味をぐんぐん磁石のように引きつけ、大変楽しく見学させていただきました。お弁当も大変おいしくいただきました。
- ・販路開拓の努力、結果の様子も知りたい。首都圏へのPR等。農産物の規格外品の処理はどうしているのか。
- ・一消費者として、農産物（市場に出回っている）選び方なども知りたかった。
- ・農協も農家も努力していることはわかりますが、双方、難儀している割には評価が低いように感じます。
- ・どんな質問にもよどみなくお答えくださったスタッフの方々ありがとうございました。

今日はありがとうございました。

・出発場所を市の中心部（市役所・カダーレ等）にしてほしい。朝の出発時間を9：30に、終わりを15：30に変えてほしい。PRちらしを新聞に入れてほしい。魁新聞に記事掲載してほしい。

・本日は大変楽しくわかりやすい説明、見学でありありがとうございました。農家の方達が、生産しやすいように設備を稼働できていて、当地の農業生産に希望を持つことができました。地産地消が多くなるような仕組みも進めばよいのですが。

この見学会の様子が新聞やJA広報誌にも紹介された。

アンケート結果で約8割が「満足」。残りの2割も「やや満足」と全員が満足しているという結果であった。改善提案もいくつかあり、今後さらに見学会として良くなる見込みがあり、見学会の存在と魅力が更に知れ渡れば、参加者も増加していくと予想される。

【第3部会結びに】

第3部会は平成30年10月に、JA施設見学会を企画・試験実施を行った。それを受け平成31年4月にJAが主催して開催されたことは第3部会の想いを実現していただいたものと深く心より感謝申し上げたい。

JAは再度、一般向けの見学会の開催を予定している。これを機に地元の農業、畜産等について農家以外からも興味を持つ人が増え、地産地消によって地元の農業が応援されるような仕組み作りがなされ、地元を愛する市民が増えることを期待する。

○県立大学生との意見交換

秋田県立大学本荘キャンパスで行われている「あきた地域学アドバンスト」の講義において学生と意見交換を行った。

開催日	内容
H30.5.23	地産品を取り上げて課題や改善方法等について意見交換を行った。 情報の発信力のせいか、知らない、届いていないということが多く挙げられた。また、イラストやデザインが古いことが手に取りにくい原因ともなっているとの意見も多くあった。
R1.5.8	「観光資源として、見る場所、お土産をどうやって若者にとって魅力あるものにするか？」をテーマに意見交換。そもそも学生が由利本荘市の観光資源やお土産等に関してほとんど認知していない。考え方によっては、まだ学生の需要を取り込める余地があるともいえる。 また、若者にとっては味よりも見た目のインパクトであったり、SNSや特に動画を使ったPRが重要であると聞かれた。 お土産として持ち帰る際にも個包装であったり、知名度がポイントになるが、適当な物が見当たらないことが問題である。

J A 本店 (由利本荘市荒町字峙台1-1)

9:00
出発

地域の農業を知って応援団になろう!

J A 秋田しんせい 農業関連施設見学会

[共催] 本荘まちづくり協議会・J A 秋田しんせい

参加者
募集

あきた総合家畜市場



パレット堆肥施設

米づくりは「土づくり」から



和牛周年預託牧場



皆さんのお越しを
待ってるぞ〜♪

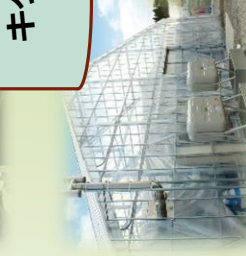
J A 本店

15:00
解散

野菜育苗センター



キク種苗センター



J A 大内支店



■日時：平成31年4月18日(木)

8時30分集合~15時解散(予定)

J A 秋田しんせい本店 出発

◆行程は変更となる場合がございます。

■参加費：無料

お弁当・傷害保険をご希望の方は実費を負担いただきますので、お申し付けください。

■募集人数：30名

応募多数の場合は抽選とします

◆長靴をご持参ください

地域にある J A の施設をご紹介します。

農業の魅力を発見し

あなたも「農業の応援団」になりませんか？

●お申し込み・お問い合わせ

【申込期限】平成31年4月5日(金)まで

J A 秋田しんせい 経営管理部 経営企画課

TEL: 0184-27-1661

A コープおおうち



お買物タイム!

秋田由利牛を使ったお弁当も販売します! (必ず事前にお申し込みください)



※写真はイメージです

【おわりに】

平成25年に設置されたまちづくり協議会の第3期目の任期として活動しました。第1期、第2期の委員が「まちづくり協議会」としてどうあるべきか、試行錯誤を繰り返したことを受け継ぎ、私たちは協議を重ねました。本荘地域が広い視点でどのようにあるべきか、その中で自分たちが今できることは何かということを問い続けました。

今回、提言にとどまらず実践という形にした結果、市や地域を担う団体に対してもわかりやすい「目指すべき姿」を示すことができたものと思います。

各委員は仕事や子育て、地域活動など様々な活動の合間を縫って2年間で全体会・部会・研修等47回もの協議と実践を行いました。自身の生活も大切ではありますが、地域も元気であってほしいという私たちの情熱が今後の地域づくりと、市政に反映され由利本荘市の魅力ある発展につながることを期待します。